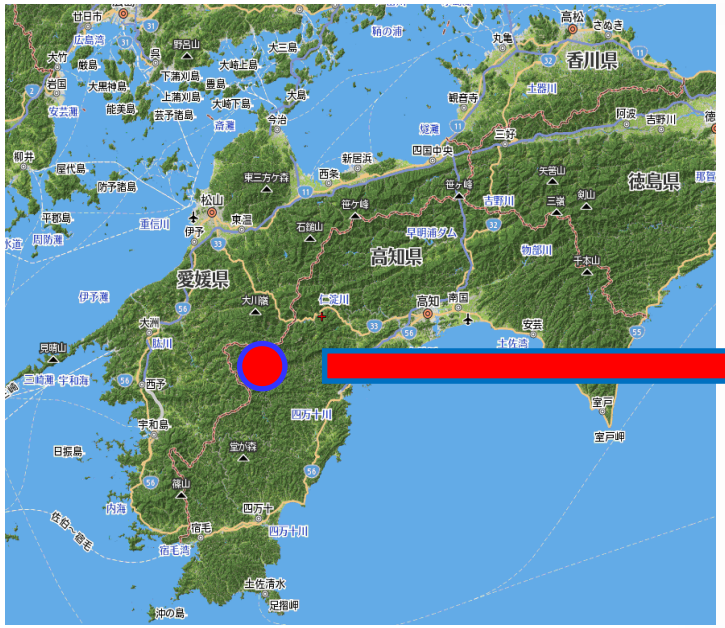
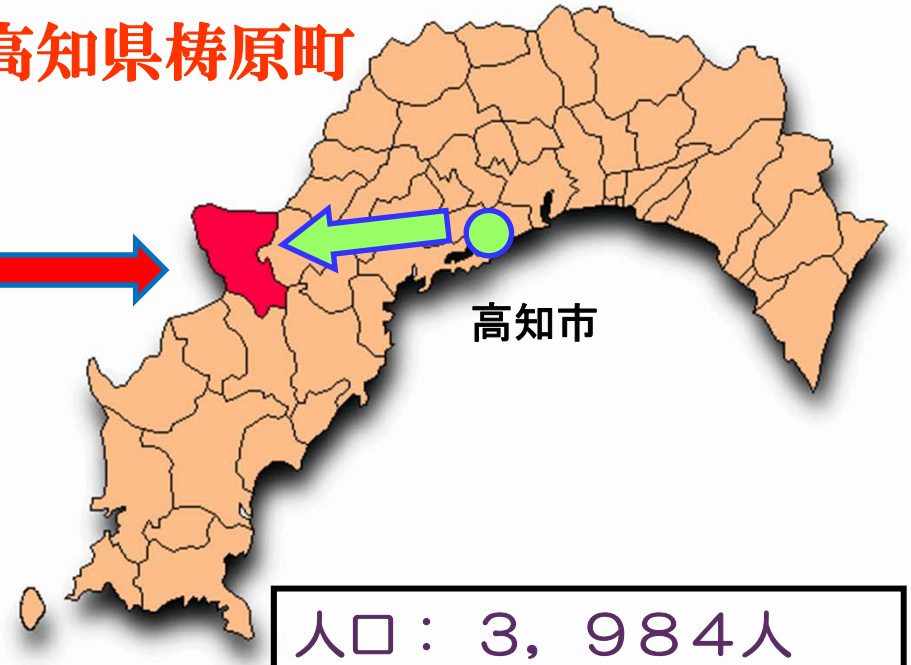
地域資源を活かし・自立する小さな拠点「ゆすはら」づくり

平成26年10月8日　高知県梼原町長　矢野富夫

梼原町（ゆすはらちょう）の位置・人口・面積





高知県の西北部、愛媛県との県境の町。日本三大カルストの一つ、四国カルスト台地の山々に包まれた裾野を清流四万十川がゆるやかに流れる源流の町。

☆ 高知市・松山市より
車で９０分

人口： ３，９８４人

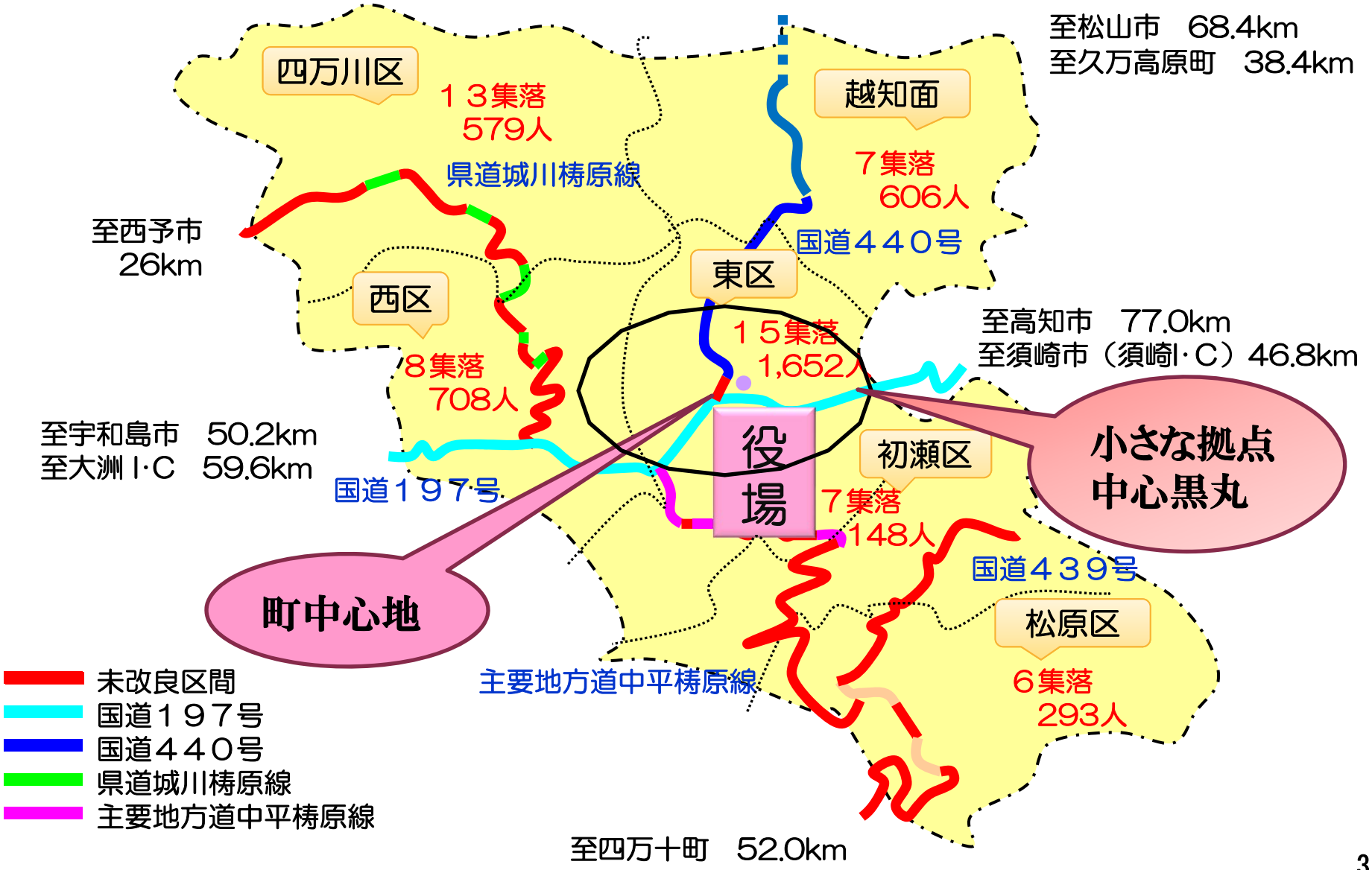
高齢化率３９％
（H22.国勢調査値）

面積：２３，６５１ｈａ

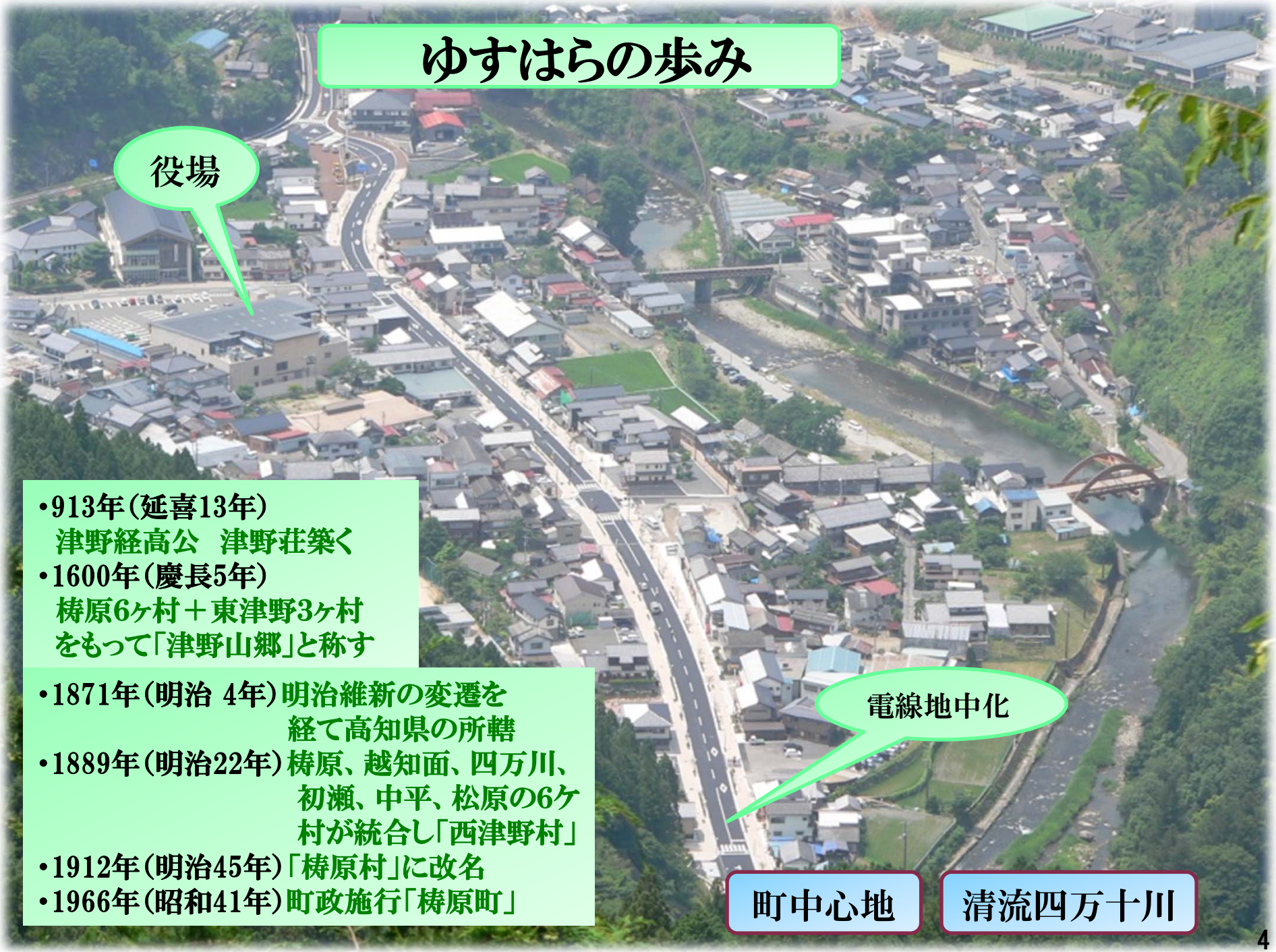
うち　９１％が森林

町中心地標高　４１０ｍ

梼原町は、6区、56集落で支え合う



ゆすはらの歩み



- 913年（延喜13年）
  津野経高公　津野荘築く
- 1600年（慶長5年）
  梼原6ヶ村＋東津野3ヶ村
  をもって「津野山郷」と称す
- 1871年（明治 4年）明治維新の変遷を
  経て高知県の所轄
- 1889年（明治22年）梼原、越知面、四万川、
  初瀬、中平、松原の6ケ
  村が統合し「西津野村」
- 1912年（明治45年）「梼原村」に改名
- 1966年（昭和41年）町政施行「梼原町」

☆梼原町の自治経営の考え方の基本

☆自治の基本は「自立」である。

- 自立とは、自分で完結することでなく、周囲と様々な関係を築き、資金の提供を受け、それに見合う価値を生みだしている状態のことである。
- その価値とは、財貨のみのことでなく、人が役に立っていると思う物やサービスのことである。
- 「自分でできることは、自分で行う」ことが梼原人である。

☆全ての考え方を、

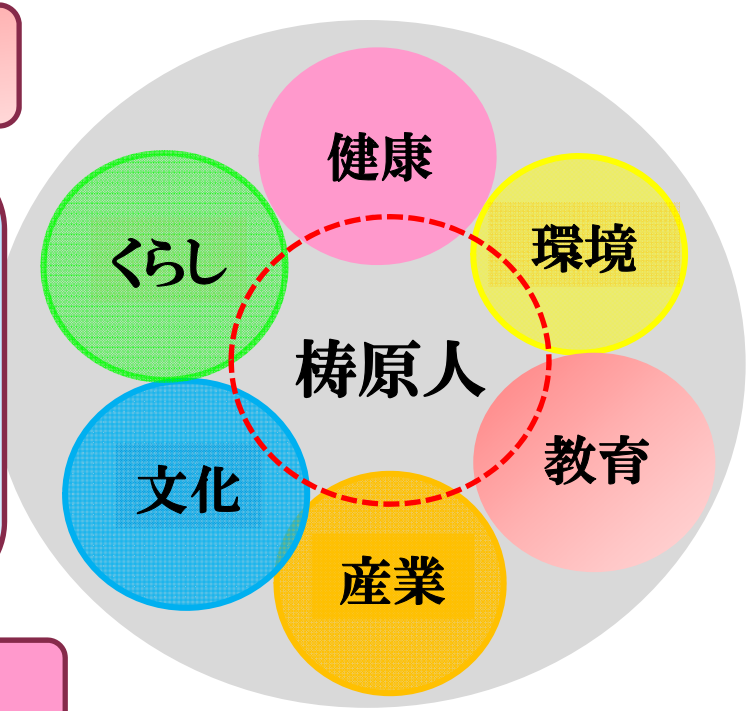
①地域資源を活かす。（人、物、自然も）
②自然と共生と循環。
③成果をおさめる仕組みをつくる。

☆その手段として、

①目的を共有する。（具体的にわかりやすくする）
②コミュニケーションを図る。
③協働作業をする。

梼原町のまちづくりの基本

「2020年に向かって
六つの言葉をキーワードに
六つの社会を目指す」
町民皆で策定した、梼原町総合振興計画
～人と自然が共生し輝く梼原構想～



(1) 梼原ならではの保健・医療・福祉が充実した社会

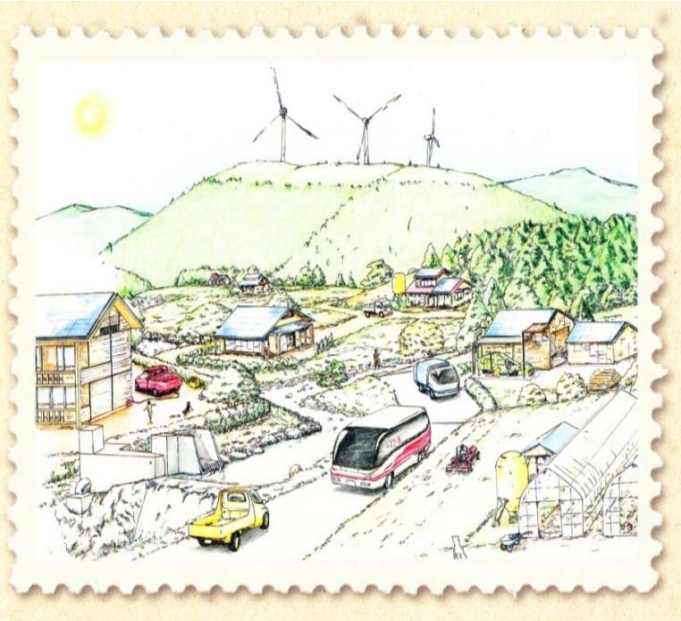
(2) 高齢化と過疎地域でも災害に強い社会

(3) 暮らしの安定と産業の振興・発展した社会

(4) 自信あふれる梼原人を育てる教育の確立した社会

(5) 人の尊厳が守られ「絆」を大切にする社会

(6) 「対話と満足度」を高める役場がある社会



坂本龍馬脱藩の道１８６２年３月２６日

坂本龍馬も近代夜明けを夢見て、梼原で泊り語り土佐を脱藩した。
それから百五十二年の時がながれた。
今、梼原町は、住民皆で心を一つにして、新しいまちづくりに挑戦しています。

目指す「ゆすはら」づくりとは、

○保健・医療・福祉・介護
　の充実したまち
☆在宅を基本に（充実）
☆サービス付高齢者住宅
☆小規模多機能型ホーム
☆デイ、ショートサービス
☆居宅介護支援
☆包括ケアシステムの充実

2050年環境モデル都市の実現

○生きものにやさしい低炭素なまち
☆再生可能エネルギーの自給率100％を目指す
☆CO2の排出削減と森林のCO2吸収率を高める

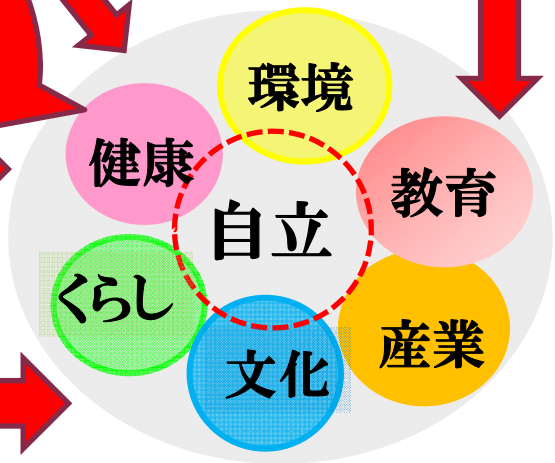
地域資源を活かす

○自信あふれる梼原人
　を育てるまち
☆保幼小中高一貫教育
☆森の中の丸ごと図書館
　（わくわくする図書館）

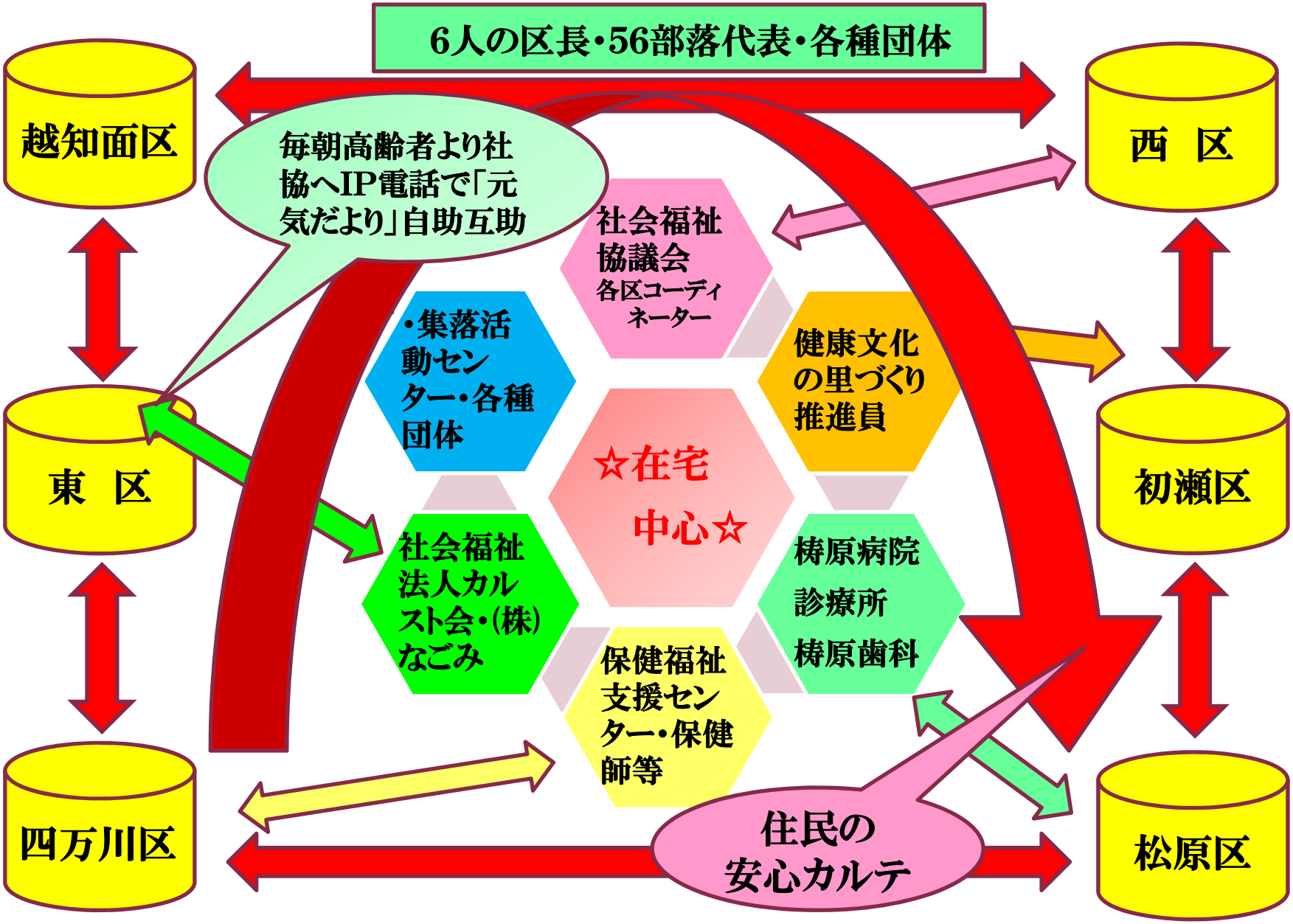
○人と人の絆を大切にするまち
☆「新しい道の駅ゆすはら・ゆすはら丸ごとクリニック」
☆森林セラピー基地・ロードを活かし「健康の再生」

○支え合う集落活動センター との連携

○人口減少対策（仕組みをつくり伝える力）
☆移住・定住人口の確保☆ 交流人口の拡大



1. そのために、在宅を中心に支え合う仕組みの充実を図る



2. 梼原ならではの地域包括ケアシステムの充実を図る

過疎地有償運送「絆」

○梼原病院
○松原診療所
○四万川診療所
○梼原歯科
○梼原町保健福祉支援センター
○梼原町社会福祉協議会

○特別老人ホームふじの家
○デイサービス　ふじの家
○障害者支援施設みどりの家
○訪問介護（四国部品・なごみ）

☆安心カルテ作成

整備予定・中間的施設
小規模多機能型施設
サービス付高齢者住宅
デイサービス・ショートステイ

入院・退院

見守り体制整備

入所・利用

要請

町外病院等へ

ヘリポート基地3

○在宅・治療から予防型社会へ

いつでも入所・退所できる

町外施設へ

高幡広域等

入所・退所

健康づくり

高齢者の健康づくり

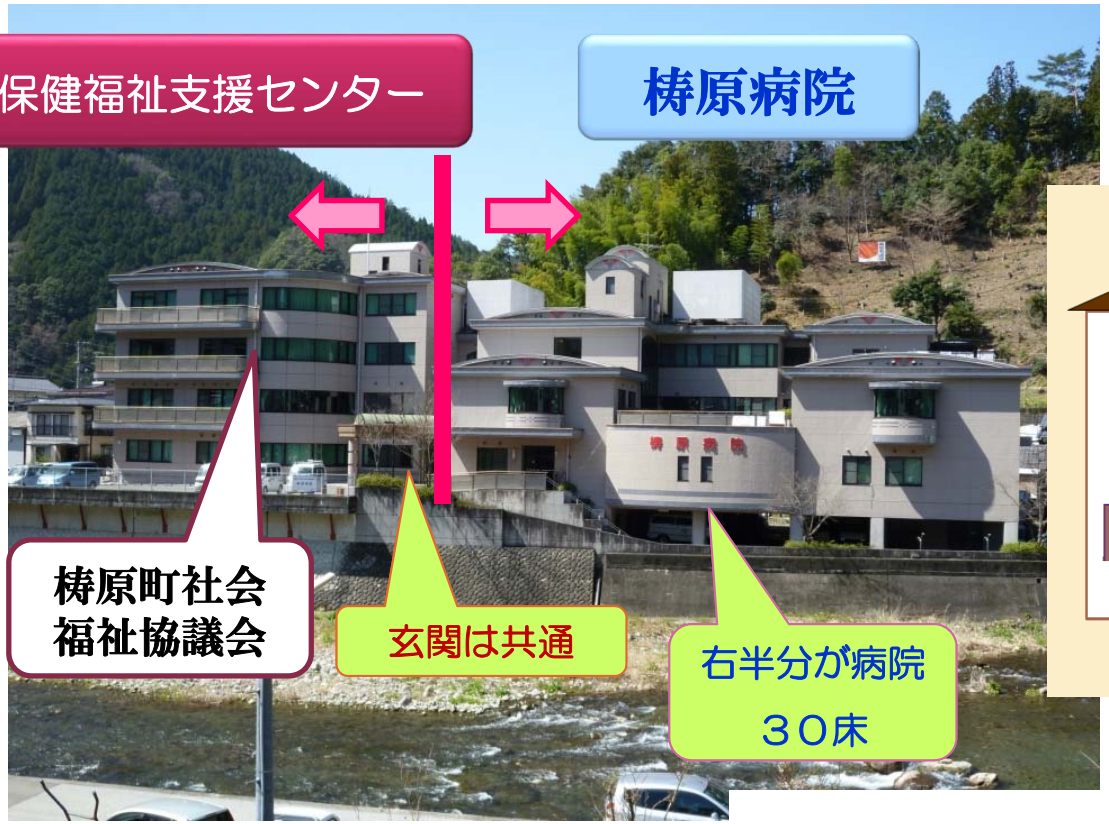
温泉

森林セラピーロード

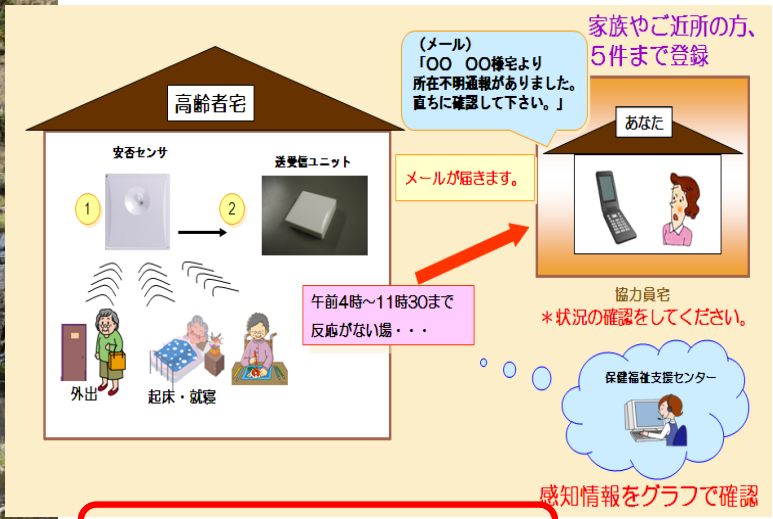
温水プール

○高齢者合宿施設
○福祉の館
○生活支援センター

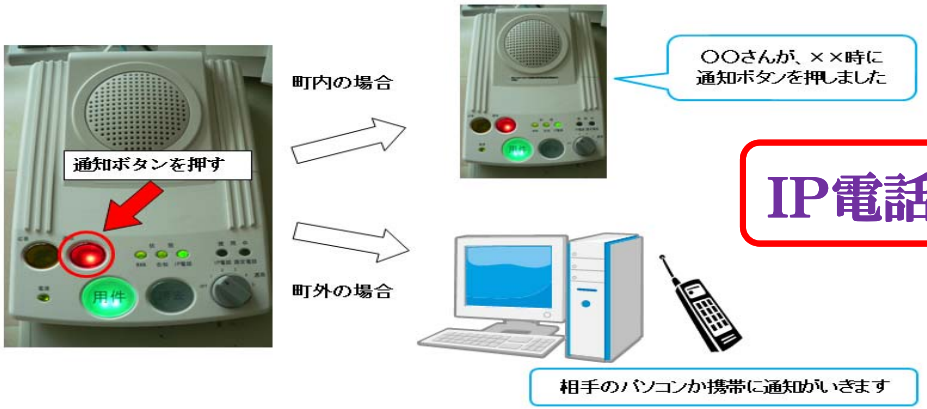
(1)そのためのこれまでの取り組み　住民の命を守る医療システムの充実



見守りセンサーシステム



緊急通報システム



IP電話

町内どこでも高速ネット接続可能・光ファイバー網

電話代のいらない町（IP電話）

（2） 住民皆での支えあい・予防活動

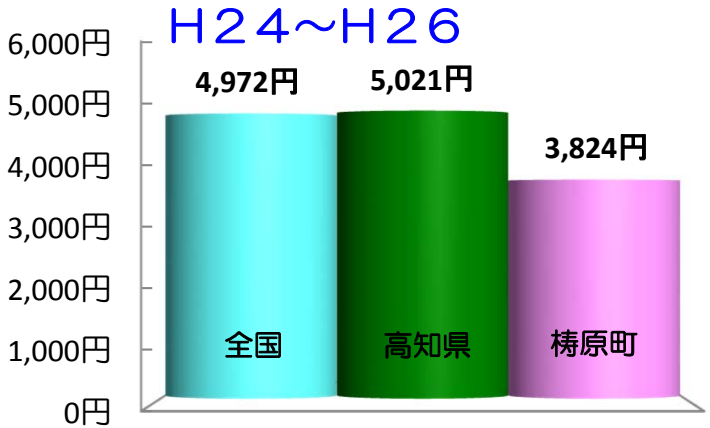
6区の自治組織・区長・衛生委員長

・集落活動センターを3ヶ所設立
（まつばら・はつせ・四万川）
☆株式会社設立ガソリンスタンド経営・産品販売・レストラン等

・健康文化の里づくり推進員（1,408人）

・一人ひとりに伝える　・会話する
・受けたくなる検診とは何かを考える

（3）そうした取り組みの成果が、介護保険料の低い水準を維持！



平成12年介護保険制度創設時から予防を重視し事業を展開

H24～H26　3,824円（336円ＵＰ）

(4)その一つ集落活動センター「四万川」の活動内容

地域のガソリンスタンドが消える
人口　579人

→

住民出資、1株1万円、出資額8百万円
(株)四万川設立

→

県・町支援、住民が自らガソリンスタンド経営
地場産品販売等

高知県

チームゆすはら応援隊

支援

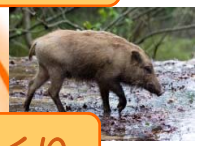
連携

梼原町

集落活動の拠点
「四万川交流センター」

地場産品の販売促進
- 新たな特産品づくり
- 農産物をお金に換える仕組み（集出荷体制）

鳥獣被害に強い集落づくり
- 猟友会の担い手育成
- わな猟免許取得の推進



地域を担う組織づくり
- 安定した燃料供給体制
- 複合経営の組織づくり（給油所・タクシー・農林業資材・集出荷）

集落活動支援体制づくり

- 共同作業の支援
- 地域の祭りごと
- 地域文化継承の仕組み

産地・人づくり

- 農林業研修生の受入
- 集落営農の推進
- 中山間直接支払制度

交流の田舎づくり
- 田んぼオーナー制度
- グリーンツーリズム
- 坂本龍馬脱藩の道
- 自然植物園　花道楽
- 旧小学校の活用

災害に強い集落づくり

- 自主防災組織の充実「自分の命は自分で守る」予防意識の普及
- ヘリポートの整備

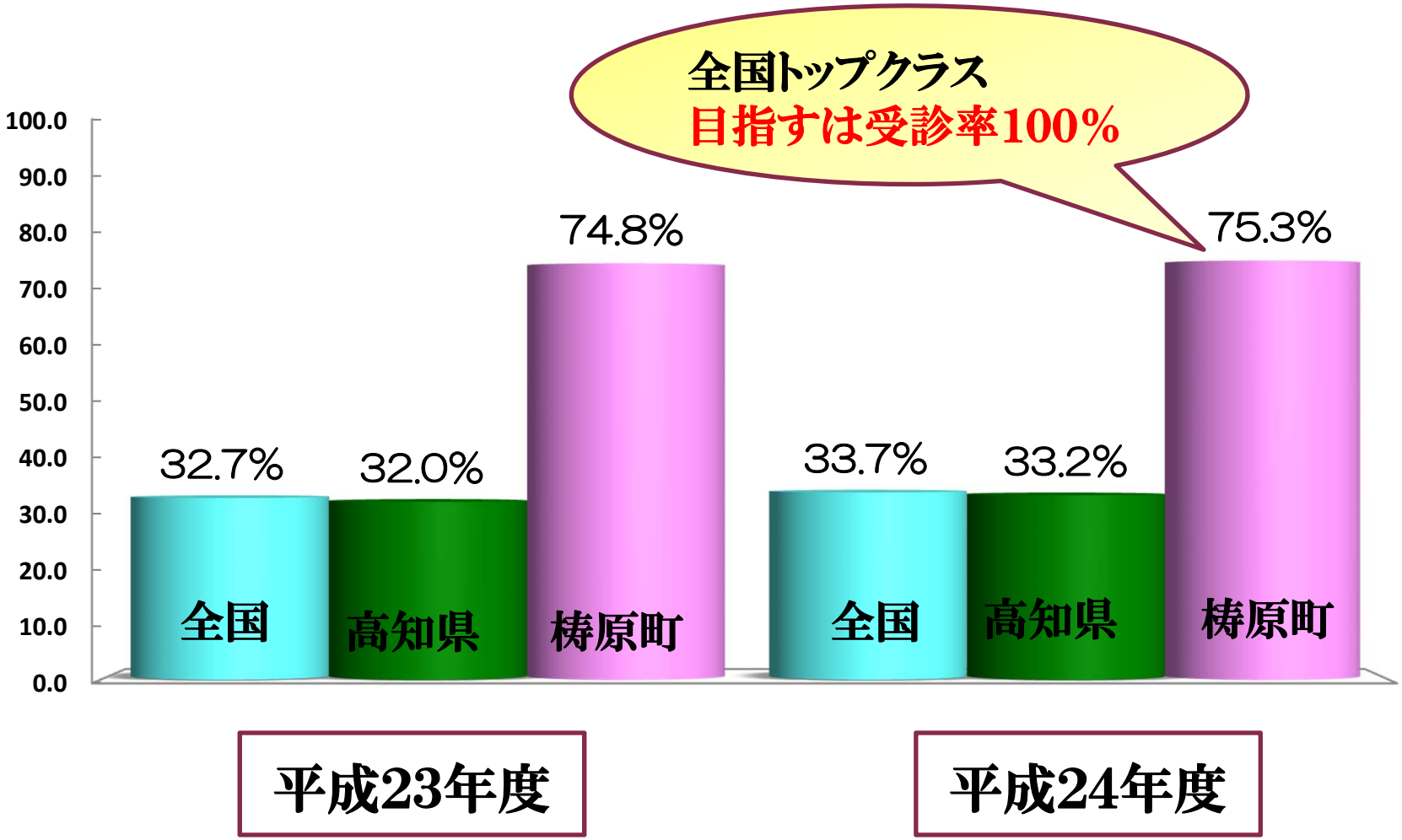
集いの場・健康づくり

- 見守り活動
- いきいきふれあい広場
- 受診率向上の取り組み（健康文化の里づくり推進員）
- あったかふれあいセンター機能

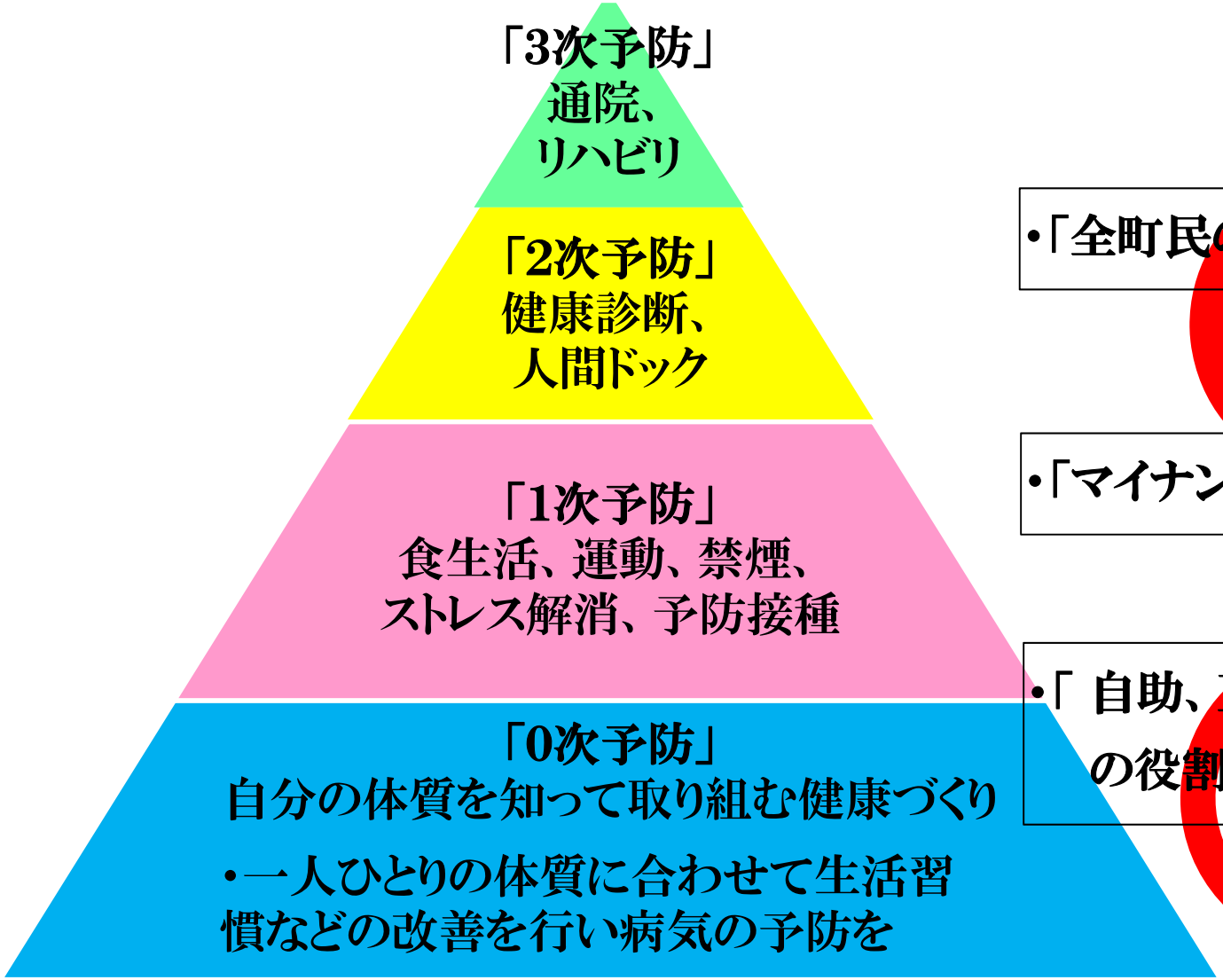
生活支援体制づくり
- 高齢者の移動手段の確保
- 高齢者の買い物支援
- 配食サービスの取り組み
- 高齢者の見守り体制

(5)そうした取り組みの成果が、特定健診率・高知県第一位

平成23～24年度実績(40歳から74歳)



3. さらに、健康診断受診率100％を目指し治療から予防型社会へ

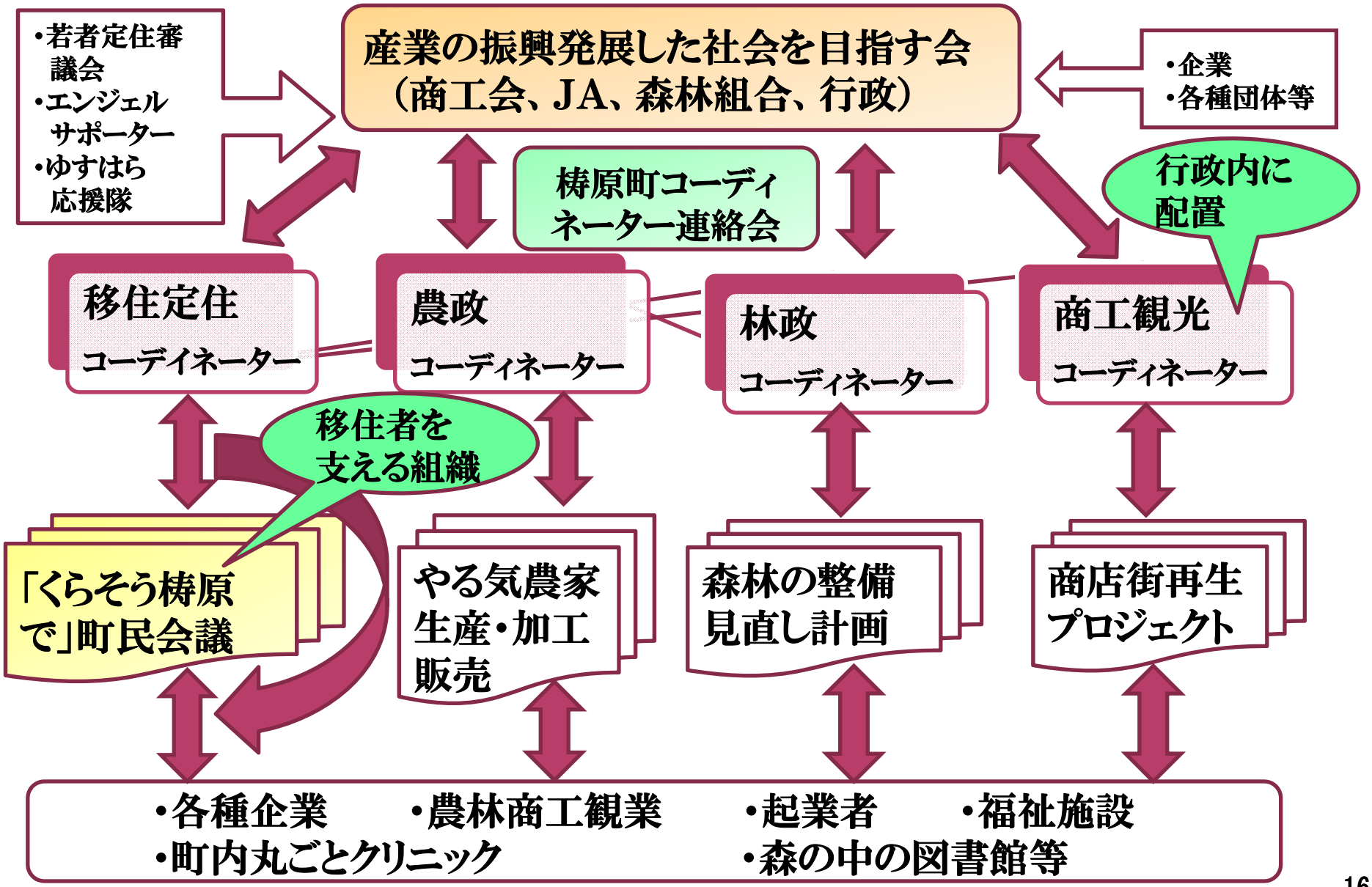


・「全町民の安心カルテ作成」

・「マイナンバー医療分野に」

・「 自助、互助、共助、公助」
の役割分担

(6)移住・定住のための雇用の場づくりのこれまでの取り組み



(7)農業は、木質ペレットを燃料にナス・ミョウガのハウス栽培

暖房機器
ミョウガハウス
3か所

町内の主要施設の燃料は、木質ペレット

小なす

矢崎総業(株)と連携

冷暖房機器施設
10か所

温泉の熱源は、木質ペレット

(8)地域資源を活かした多品目栽培、ネット販売等様々な活動

・大上厚しいたけ(1個800円)

しいたけ

棚田オーナーが作る「棚田米」

土佐カルスト牛

町内どこでも食べられるキジグルメ

(9) 日本で最初のオーナー制度から22年、今でも続く、人と人の絆　・通算507組　2，616人との交流

子供の教育の場

オーナーとの交流状況

4. 林業においては、「仮称　ゆすはら森林づくり担い手育成塾」を開校する

☆既存会社
- 建設、運送
- 林業会社
- 自伐林家
- 新規雇用者等

＋

椨原町森林組合

椨原町内の製材会社

役割を分担する

伐採搬出、製材

民有林管理、
事務受託、
造林施業、製材、

＋

＝

森林の再生

☆行政の役割

〇人材育成支援
- 年180万円を5ケ年支援（担い手育成塾で1年間学び、林業機械等国家試験を取得別途町が費用負担）し、各会社で働き育成する。（皆で育てる）
- しいたけ原木確保支援
- 再造林、下刈りについて補助体制

＋

間伐、皆伐
新植、下刈り等施業
作業道整備

発注時期
4月～7月へ

新施業計画
（森林づくり）

林政コーディネーター・林政係

(10)そのためのこれまでの取り組み
施設は全て地域のFSC材

ラベリング

- 国際的な森林認証の審査機関の１つ（NGO）
- 本部　ドイツ
- 森林管理に関する原則と基準づくり

まちの駅

FSCの森林

四国カルスト

茶堂

屋根付き木橋

梼原町総合庁舎

LCCM住宅

木橋アーチ橋

ギャラリー

福祉の館

「ゆすはら座」

まろうど館

(11)そのためのこれまでの取り組み
農林業の担い手を優先する移住・定住の住環境整備を図る

・サポート・移住定住コーデイネーター・
・「くらそう椨原で」町民会議

耐震対策調査・設計・改修全て90％補助

・町産材新築　　２００万円補助
・〃　若者は、　１００万円加算
・若者の増改築　１００万円限度
事業費の２分の１補助

町独自がけ崩れ対策75％及び90％補助

町単独合併浄化槽設置
個人負担10万円の残
は補助

（12） 農林業担い手を優先する空き家改修

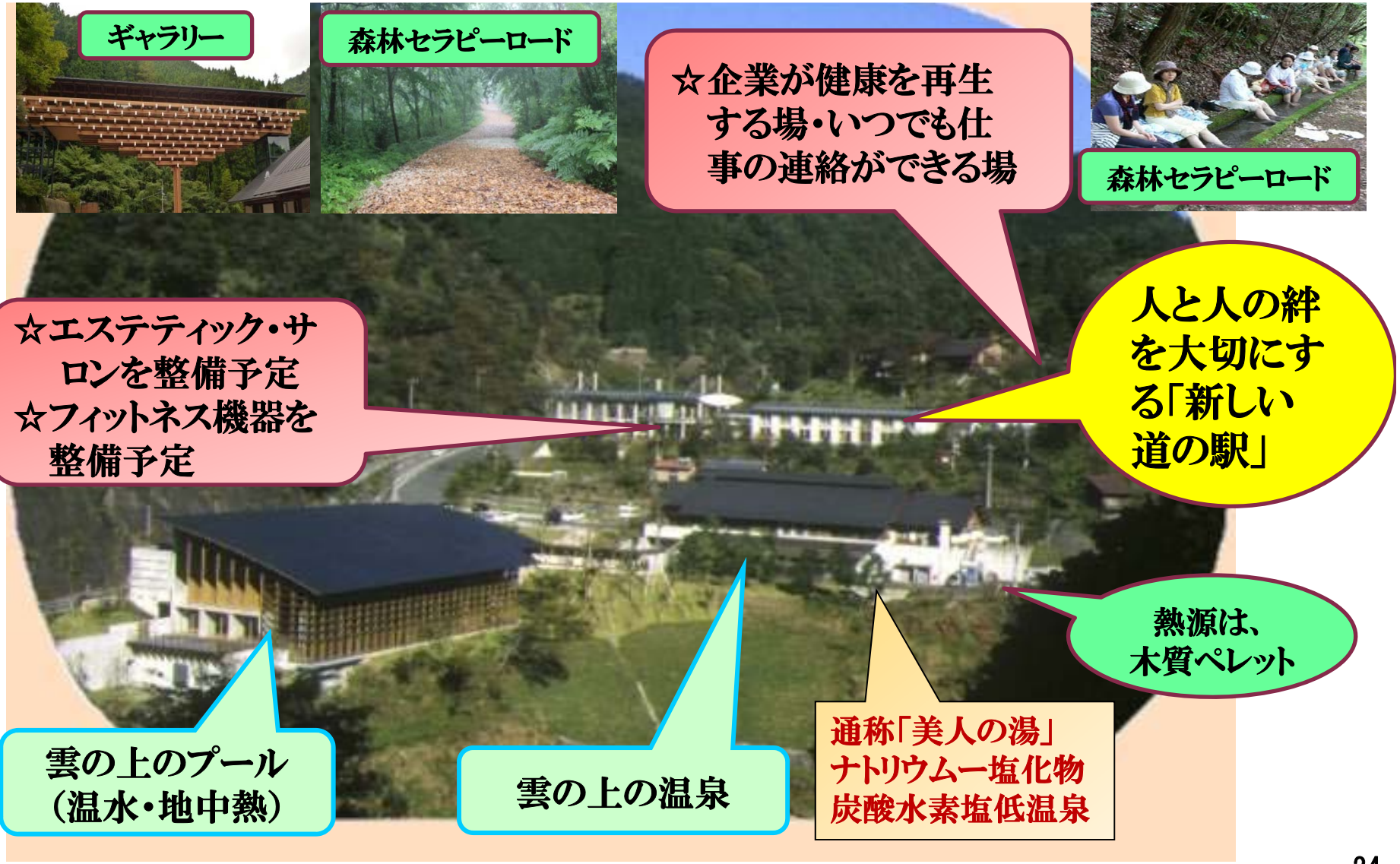
トイレ
改修

風呂場
改修

・お試し住宅　月当たり１万円
・改修住宅　　月当たり1万５千円から

5. そして「ゆすはら丸ごとクリニック」の拠点を太郎川公園につくる

森林の中で「健康再生」・森林セラピー基地・ロードを活かす太郎川公園再生



(13) 自信あふれる梼原人を育てる教育の確立した社会を目指す

○梼原町教育委員会
- 教育委員長　岩本直也
- 教育長　久保栄八
- 委員長代理　吉門志茂
- 委員　掛橋水和
- 委員　矢野陽子

教育委員会

- 梼原町就学指導委員会
- 青少年健全育成町民会議

- ゆすっ子相談センター

- スクールソーシャルワーカー
- スクールカウンセラー
- 町単教員配置

教職員 学校・園

保幼小中高生（0歳～18歳）

保護者 PTA

- 学校支援地域本部

○一貫教育支援センター（H25）
- 顧問　野口克海
- 所長　大崎博澄
- 幼児教育アドバイザー　日向國雄
- 社会教育スーパーバイザー　横川恒雄

一貫教育支援センター

- 梼原町生涯学習推進会議

- 婦人会・体育会
- 連合青年団
- 文化協会

(14) 自信あふれる梼原人を育てる仕組みをつくる

「小中一貫教育」・「小6：中3制を4：3：2制に変更」H23年4月梼原学園開校

保幼「梼原こども園」

小中「梼原学園」

梼原高校

・保育料無料化・15歳まで医療費無料化・寮利用月1，500円・梼原の歴史教育と保育より英語教育・中学生は毎年オーストラリア・イギリスに8名3週間留学・高校1年間留学・奨学資金貸付（全額免除制度有）

2014年4月人数

施設別	児童生徒数
梼原こども園	89人
梼原学園	220人
梼原高等学校	101人
計	410人

選ばれる梼原高校野球部・増加する人数

（創部7年目・横川監督就任2年目）

年度別	入学者数	内地域外数
2012年	37人	6人
2013年	35人	7人
2014年	29人	17人

6. そのために森の中のまるごと図書館をつくる
～町内全域が図書館の機能をもち町民皆で知識の共有を図る～

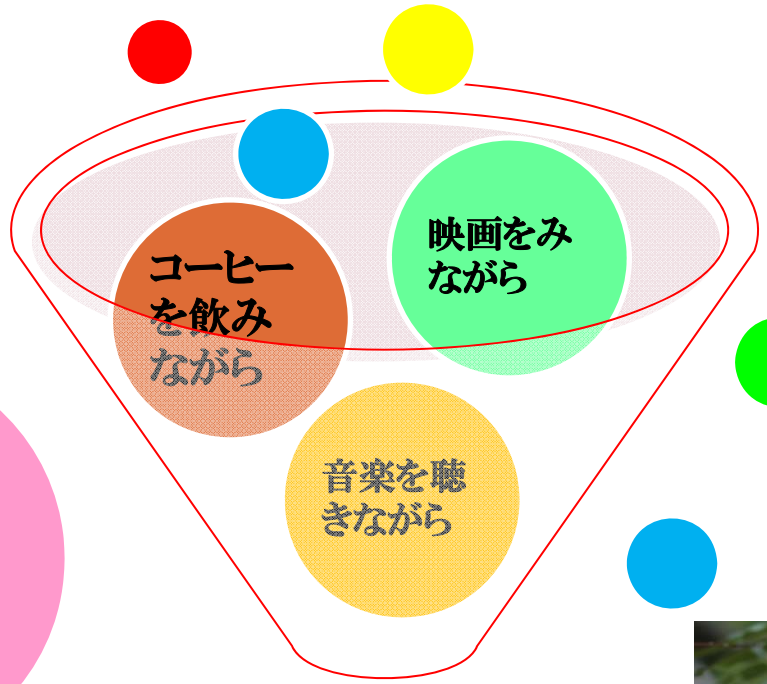
体験学習しながら本を読む

1日中楽しめる交流の場

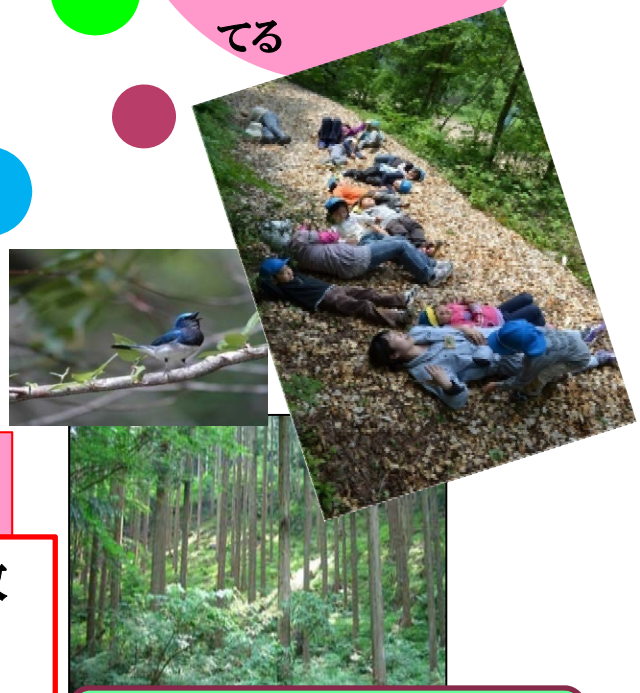
会議をしながら本を読む

教育委員会

一貫教育センターがある



- 駄菓子屋がある
- 本を売っている
- フィギアで夢を見れる
- 町内を本が動いてる



わくわくする図書館

目的「自信あふれる梼原人を育てる教育の確立した社会」
「人の尊厳が守られ「絆」を大切にする社会」をつくる。

要らなくなった本は
再生紙にし人づくりへ

(15)そのためのこれまでの取り組み　低炭素社会を目指す

＜環境モデル都市の目標（2009年１月23日認定）＞

「森の資源が循環する公民協働の“生きものに優しい低炭素なまちづくり”」の実現

①再生可能エネルギー自給率100％を目指す

風

水

土

森

光

② CO2の排出削減と森林のCO2吸収率を高める。

☆2050年にCO2排出量を1990年基準（23，634t－CO2）の70％削減

☆2050年にCO2吸収量を1990年基準（16，200t－CO2）の4．3倍増

☆化石燃料からのエネルギー転換、森林整備により森林吸収を高める。

③ 梼原町廃棄物減量等推進委員　15名

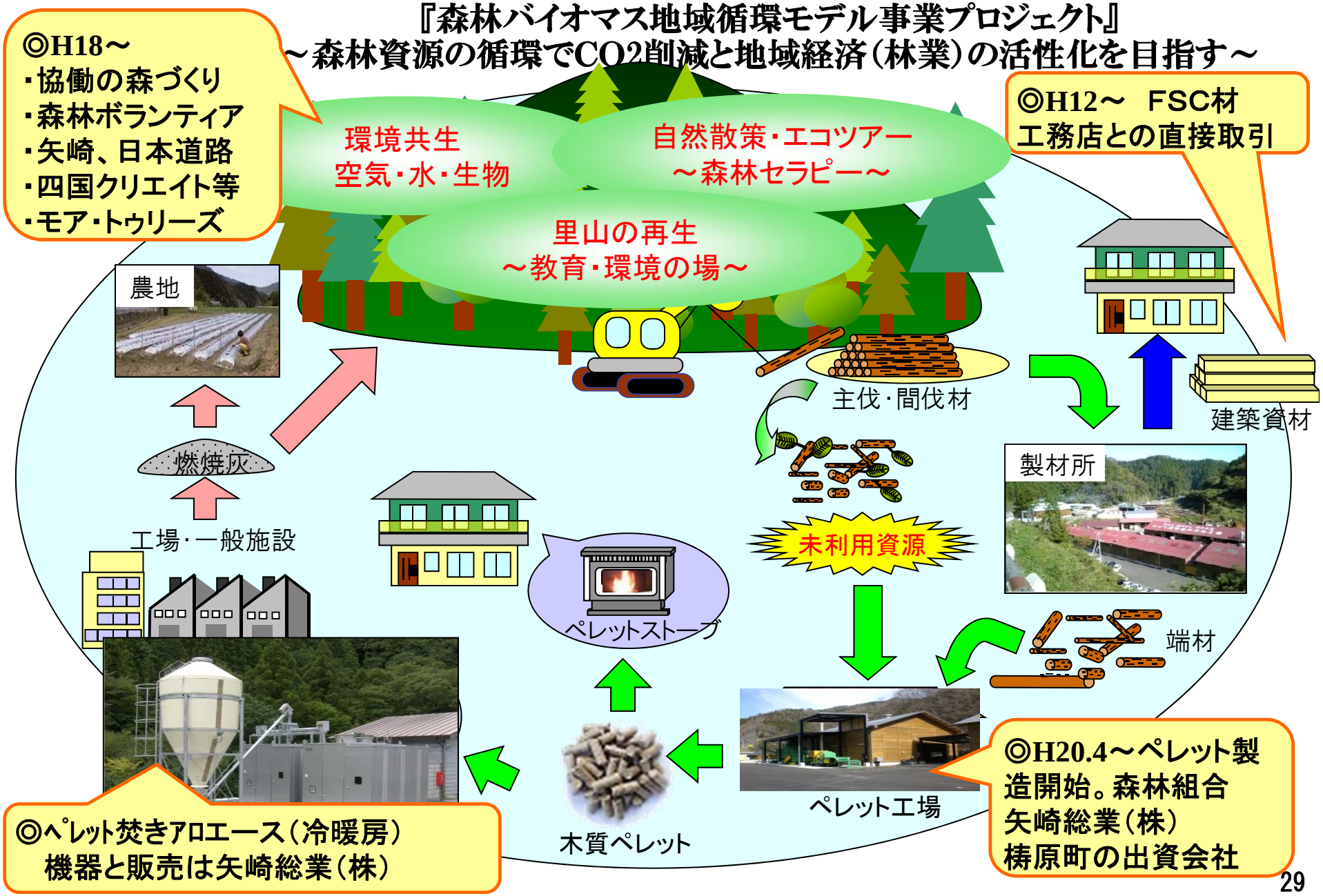
生ごみをペレットに製造

廃油を車の燃料（BDF）

し尿を堆肥に製造

(16)森林の総合的な利活用・資源の循環の仕組み

『森林バイオマス地域循環モデル事業プロジェクト』
～森林資源の循環でCO2削減と地域経済(林業)の活性化を目指す～



(17)学校教育の場や各地域で子どもと大人が一緒に小さな太陽光発電街路灯を作っています。（皆で環境教育）

(18)再生可能エネルギー(環境)が観光(経済)につながる

- であいの会(町民20名)が坂本龍馬の格好をしてガイドをはじめる。

環境のガイド

歴史・文化のガイド

２３年６月～２５年３月まで２２カ月視察者行政２３５団体、一般３３２団体の５６７団体６，９３６人

7. そうした資源を活かし、年間30万人観光交流から、50万人観光交流を目指す

椿原町の2001年の観光客数は、約31万人で内太郎川施設群は、約17万人であったが、2013年の観光客数は、約27万人で内太郎川施設群は、約10万人と大きく落ち込んでいる。

このため、地域資源を活かしたまちづくりの整備により、50万人観光交流を目指し、太郎川公園を「町内外の人の健康再生」をキーワードに整備し、雇用と経済の活力を生みながら、ゆすはらを未来に引き継いでいく。

現状と太郎川公園再生後の単年度比較

2013年	町内全域	太郎川内	単位
観光客数	27	10	万人
経済効果	2,484	930	百万円
雇　用	－	31	人
人件費	－	59	百万円

再生後	町内全域	太郎川内	単位
観光客数	50	19	万人
経済効果	4, 634	1, 800	百万円
雇　用	－	80	人
人件費	－	205	百万円

1. 5倍

8. 地域資源が雇用創出、経済効果に（2012年まで）　No.1

	2012年のエネルギー自給率	2050年まで自給率	2012年まで経済効果	2050年まで経済効果	雇用人数	軽減率
風	19.47 %	85.90 %	1,142 百万円	15,075 百万円	42 人	
光	4.66	9 .73	939	1,483	―	△８０％
森	―	―	1,563	4,744	19,227	
水	2.26	2.26	220	296	12	△９０％
土	1.46	1.46	252	822	15	△７０％
ＢＤＦ	―	―	25	101	6	△４０％
ＲＤＦ	―	―	1,547	3,642	30	―
土づくり	―	―	723	1,727	30	△６０％
観光産業	―	―	104	1,814	―	―
ガスタービン	0.65	0.65	22	53	―	△３０％
合計	28.50 %	100.00 %	6,512 百万円	29,757 百万円	19,374	―

9. 地域資源が雇用創出、経済効果に（2012年まで）　No.2

	2012年までの ＣＯ２排出削減	2012年までの ＣＯ２森林吸収	様々な効果
風	961ｔ－ＣＯ２		○エネルギーの地産地消
光	363		○施設の維持管理費軽減
森	1,329	67,000ｔ－ＣＯ２	○森林の適正管理
水	96		○子供の環境教育及び町民の意識高揚
土	105		○町民の健康づくり
ＢＤＦ	6		○食の自給率向上
ガスタービン	47		○ゆすはらブランド化
石油・ガス・電気等	15,406		
合計	18,313　ｔ－ＣＯ２	67,000ｔ－ＣＯ２	
全体額	23,634	16,200t	
達成率	23%（▲70%）	4.1倍(4.3倍)	

(19)そのために、毎年町民皆で元気を全国に発信(よさこい踊り・チーム梼原)しています。

(20)そして、毎年町民皆で地域資源を大切にしています。

動ける町民参加
70年以上続く道
路愛護作業

毎月第二土曜日
は環境整備ディ

四万十川の清掃作業

山村に生きる
ためには欠
かせない

人も自然も、
美しく！！

(21)そして、椿原が誕生して千百年の時が流れました。
その時代の決断と実行を見える化し、町民皆で誇りと自信をもち、千二百年に向けて今年新たにスタートしました。

提案いたします。

私たち梼原人は、いつも「自分たちでできることは自分たちで行う」ことを基本に、できないことにつきまして、国、県にお願いを申し上げてまいりました。
私は、国も私たちが地域で住み続けられる「ふるさとづくり」への最大のパートナーだと捉えさせていただいてお ります。
そのパートナーと目的を達成する手段は、目的を共有し、 コミュニケーションを図り、協働作業をすることであります。

今回提案する「ゆすはら」づくりは、まさに地域が生き残 る総合戦略であります。
国の各省庁が目的の達成に向かって一体の組織体制をつくり、地域の実情を調査され、ご支援いただくことは、私たちにとって、大きな力となるものであります。

「伝統とは、消えた灰を崇めることではない。あかあかと燃える松明を引き継いでゆくことだ」という言葉は、地域づくり、まちづくりにもあてはまる格言だと思っております。

私は、梼原の活力が残されている、今こそ、「自立する小さな拠点ゆすはら」をつくらないと、生き残れないという覚悟で、全力で取り組んでまいります。
どうか、こうした地域の実情覚悟にご理解をいただき、今回の政策において、地方の目的達成に向けて、地方が持っている様々な地域資源を活かし、発信し、官民学が一体となり都市と山村の連携する仕組みをつくり、中山間地域の維持・再生に向けて、柔軟で使い勝手の良い交付金制度を創設いただきますよう提案するものであります。

そして、私たちは ゆすはらを未来に引き継いでゆきます

どうぞよろしくお願い申し上げます。